



第58回「おかねの作文」コンクール

特選 J-FLEC理事長賞

多忙な「貯金箱」

福岡県・福岡市立高取中学校 2年 西原 鈴恩

今年、母の誕生日に貯金箱に貯めたお小遣いを使ってこっそりプレゼントを買う計画を実行した。僕の家では、お風呂とトイレ掃除をすると10円、検定試験に合格すると20円もらえる。たまに、遠方に住む祖父母に会うと、お小遣いをもらえるビッグチャンスがある。最高だ。貯金箱にお金が増える喜びは、とびっきりの笑顔になる。

母の誕生日が目前に迫った頃、家族で商業施設へ行った。玩具店で弟がミニカーが欲しいと両親にせがんでいたが却下されて悲しい顔をした。僕は、「少しならお小遣い使っていいか。」と思いミニカーを買ってあげると、弟は飛び跳ねて喜んだ。貯金箱の残金が気になったが、かっこつけてしまった。

そして、しばらく歩くと文具店があった。僕が探していた限定カラーのシャープペンを見つけてしまったのだ。欲しい誘惑に勝てず「あと少しだけお小遣いを使っていいか。」と会計を済ませた。

いよいよ母の誕生日がきた。貯金箱に貯まった4,800円を手に取り、自転車でアクセサリショップへ向かった。僕にとって、どの商品も高額で足がすくんだが、いつも元気で明るい母に合うゴールドのバレッタ2,300円に決めた。残金、2,500円になった。

次に向かった先は、ケーキ屋。家族4人に良い4号サイズの苺のホールケーキがあった。値段は、3,200円。買えない。結局、母に680円のフルーツカットケーキを買って帰った。母は、目が飛び出るほど驚いて涙をあふれさせながら喜んでくれた。サプライズ計画は大成功に終わったが、僕は少し腑に落ちなかった。

先日、家族で買い物に出掛けた時の記憶が戻った。母の誕生日へ向けて貯金箱にコツコツと貯める計画を立てていたのに、甘い考えが邪魔した場面が蘇ったのだ。

「少しならお小遣い使っていいか。」この軽率な行動がいけなかった。簡単にお金を使わなければ、母に苺のホールケーキを買ってろうソクを立ててお祝いが

できたのに。まさに、後悔先に立たずだ。

お金は、不思議である。貯金は、とても難しいが一瞬のうちに減ってしまう。日常的に「貯める」と「使う」のバランスを考えて行動しなければ賢くお金を増やすことはできない。特に大切なことは、目標と期間と必要金額を設定することだと思う。普段から目標を立てることで日々のモチベーションが上がり、その期間は無駄な支出が減る。暮らしの中でお金は必要不可欠である。つまり、「いかにお金を残せるか。」が貯金のコツや仕組みの大前提なのだ。

さあ、来年こそ母の誕生日にプレゼントとホールケーキを買う目標へスタートだ。いつも母の優しさに感謝しているのに、反抗的な態度をとってしまう。それでも突き放さず、献身的に応援してくれる。そのような母に、一年に一度、気持ちを伝えるチャンスだ。途中で物欲に目がくらまぬように、僕の多忙な「貯金箱」よ負けるな。